

ICTを活用した授業改善について考える

- ▶▶ 開催日 2011年2月23日(水) 携帯電話やクリッカー等のモバイル・コミュニケーション・ツールを教室に導入した「学生参加型授業」の実践を紹介しながら、学生の“学びへの意欲”を喚起し、“主体的な学び”を支援する ICT(情報コミュニケーション技術)の意義について理解を深め、その導入と実践にあたって解決すべき課題を認識することを目的とします。
- ▶▶ 時間 13:00~15:30
- ▶▶ 会場 B102教室

テーマに関心のある教職員の方ならどなたでもご参加いただけます。事前の申し込みは不要です。

電子計算機センター長, FDセンター長

プログラム

他大学の事例に学ぶ 授業応答システム「クリッカー」による能動的学習授業

北海道大学 高等教育推進機構 山田 邦雅氏

山田先生は、北海道大学高等教育推進機構・高等教育研究部の「高等教育研究部門」に所属され、ICT を活用した授業改善に取り組まれています。

授業応答システム「クリッカー」を利用した能動的学習について、システム開発の背景と教育的意義をお話しいただくとともに、みなさまとともに実際にクリッカーを使った学習体験を行い、「クリッカー」の持つ可能性と課題について考えてみます。

クリッカーとは・・・

数字やいくつかの記号が配置された手のひらサイズのリモコンです。授業中、学生ひとり一人に配布します。

学生は、教員の質問(小テストやアンケートなど)に対してボタンを押して回答します。

結果は、ただちに集計、グラフ化されて、教室前方のスクリーンに映し出されます。



立正大学経済学部での授業風景

本学における実践事例 携帯電話を活用した双方向型授業の実践

授業中に学生が携帯電話から自由に発言を行い、これが即時にプロジェクタに表示されるシステムを利用した授業改善の取組について紹介します。

社会情報学部 大國 充彦氏

「現代社会論」(出席学生約 50 名)では、授業中に学生たちがリアルタイムで携帯から意見を書き込み、表示できるシステムを導入した。学生への問いかけを適切に加えること、書き込み時間を確保すること等の条件を満たした場合、多くの学生から書き込みがあり、授業の理解と掘り下げに大きな役割を果たした。この方法の課題を整理し、次年度の授業に活かすことにしたい。

経済学部 浅川 雅己氏

本年度は、まだ試行段階で 2, 3 度受講者から質問や感想を送ってもらった程度です。もともと具体的な活用法のアイデアがあったわけではなく、やりながら考えてみようということで始めました。システム利用の十分な時間が確保できず実践事例としては、ご報告できるほどのものはありませんが、パケット料の負担の問題などやってみて気づいたこと、今後試してみたいことを中心にごく手短にお話しさせていただきます。

クリッカー製品の紹介 双方向対話支援システム「ソクラテック」(株式会社 IC ブレインズ)

大学等の教育機関や研修・イベント機関等での活用事例をご紹介いただきながら、高等教育機関における双方向対話支援システム活用の可能性についてお話しさせていただきます。

主催: 札幌学院大学電子計算機センター／札幌学院大学FDセンター

(問合せ先: 電子計算機センター)